學藝新聞

第20号 2022年(令和4年)7月20日発行

■ サポーティングマッチ…… 1・2
■ 附属中学校 …… 3
■ 輝く人（卒業生） …… 4
■ 学芸スポーツ（空手道部） …… 5
■ 学芸ニュース（国際科） …… 6
■ 学芸ニュース（国際科・サイエンスラボ）… 7
■ 学芸スポーツ…… 8

■発行元
学校法人 大阪学芸
大阪学芸高等学校
大阪学芸高等学校附属中学校
〒558-0003 大阪市住吉区長居1丁目4番15号
TEL.06-6693-6301 FAX.06-6693-5173

大阪学芸サポーティングマッチ

2022なでしこリーグ1部（第13節）セレッソ大阪堺レディース vs AS ハリマアルビオンの試合において「大阪学芸サポーティングマッチ」が実施されました。緊急事態宣言発令以降、様々な行事が中止となっていたため、本校生徒たちにとっても久々の大きなイベントとなりました。

当日は雲一つない晴天‼吹奏楽部による演奏の後、開会セレモニーではボランティアサークル生徒たちによるフラッグシンフォニーやフラッグベアラー、教職員・関係者のお子様たちによるエスコートキッズ、キックインセレモニーなど、多くの場面で生徒たちの参加が叶いました。また、開始前やハーフタイムでは放送部がスタジアムDJの一部を担当しました。

試合は前半2対0。後半開始直後に3点目を先取し圧勝かと思われましたが、相手チームの激しい巻き返しによって3対3の同点まで追い付かれてしまいました。ここで90分が経過、残り2分のアディショナルタイムのみとなりました。応援席にいる学芸生たちにも不安が広がります。シンと静まるスタジアム。観客たちが見守る中コーナーキックからのヘディングシュート！決勝点を決めたのは本校生である白垣うの選手‼観客席が一気にワアッ‼と沸き上がり、歓喜の声で埋め尽くされました。

多くの部や同好会、教職員、セレッソ関係者の方々の協力により、心に残る素晴らしいイベントとなりました。

※写真撮影時のみ、マスクを外しています。

高等学校

サポーティングマッチ

晴天の中、素晴らしいイベント大成功!!

試合前の準備

座席清掃／ボランティアサークル

ヨドコウ桜スタジアムの座席をボランティアサークル生徒が清掃しました。

クリアファイルの準備／ボランティアサークル

入場出入口で来場者に配布する特製クリアファイルの準備をしました。
特製クリアファイルはサポーティングマッチのために作ったオリジナル製品です。ファイルの中には学芸高校と附属中学校のチラシが入っています。

開会セレモニー

セレモニー演奏／吹奏楽部

スタジアムに映える真っ白な学芸Tシャツの部員たち。力強く、リズミカルな演奏で会場を盛り上げました。

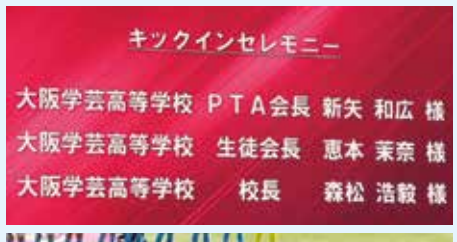
フラッグベアラー&フラッグシンフォニー／ボランティアサークル

セレッソロゴプリントのフラッグを持ったボランティアサークルの生徒たち。ピッチ上で桜色の旗が美しくはためきました。

レフリーエスコート／ボランティアサークル

キックインセレモニー

PTA会長 新矢 和広様、生徒会長 恵本 茉奈さん、森松 浩毅学校長の3名が行いました。



エスコートキッズ／教職員関係者子供

大阪学芸の教職員・関係者のお子さんたちがエスコートキッズとして参加。セレッソ大阪堺レディースの選手たちと一緒に、手を繋いで入場しました。

会場入り口前

パティスリーSAKURA GAKUGEI／クッキング同好会

特設テントにてオリジナルクッキーを販売しました。このクッキーは、クッキング同好会の生徒＆本校卒業生でもあるセレッソ大阪堺レディースの山下莉奈選手、宮本 光梨選手、荻久保 優里選手による共同製作!! 当日のみ200個の限定販売、購入者には抽選で選手のサイン色紙が当たりました。売り上げは日本赤十字社を通じて、「ウクライナ人道危機救援金」に寄付いたします。

入場出入口スタッフ／ボランティアサークル

スタジアムに来られたお客様を笑顔でお迎えしました。

運営サポートなど

大阪学芸 桜放送局／放送部

試合開始前やハーフタイムでスタジアムDJの一部を放送部が行いました。学校紹介や吹奏楽部の紹介など、日本語と英語の2か国語でお届けしました。

ボールパーソン／女子サッカー部　担架スタッフ／男子サッカー部

試合コートの脇では、女子サッカー部・男子サッカー部が待機をしていました。

展示コーナー

2階コンコースにて文化部の作品展示が行われました。

写真部

5月に行ったセレッソ大阪堺レディースの試合撮影会や、前日のクッキー製作の様子、長居植物園の写真などが展示されました。また、当日はイベント全体の写真撮影も行いました。

書道部

掛け軸に飾られた3名の作品。ダイナミックでありながら流れるような優雅さを感じさせる素晴らしい作品に、観客の皆様から高い評価をいただきました。

アニメ漫画同好会

今回のサポーティングマッチに向けて、セレッソのマークを爪楊枝アートで作成しました。

附属中学校 数々のイベント、楽しく体験!!

附属中学校の取り組み

附属中学校では、教育理念の一つとして「落ち着いた環境で授業を提供する」ことを掲げています。具体的に徹底させているのは「授業中勝手に発言しない。発言するときにはまず手を挙げる。」ということです。新学期のスタートにあたり、1年生にはオリエンテーションで伝えました。2年生・3年生についても忘れることのないように、今後も繰り返し伝えていきます。

朝読

中学校では毎日、8時30分から8時40分まで朝読書をしています。わずか10分、されど10分です。この10分間で心を落ち着けて一日の良いスタートを切るとともに、読書を通して語彙力を高めることに繋げています。また、当然のことながら、8時30分に読書を始めるためには、8時25分前後には学校に到着している必要があります。常に5分前行動を心掛けるように指導をしつつ、ことばを育み、時間を大切にするこころを養っています。

宿泊研修

今年度は3年ぶりに中学1年生の宿泊研修を実施することができました。過去2年間、コロナ禍のため宿泊行事を断念せざるを得なかったことを思えば、喜ばしい限りです。

4月21日（木）9時に学校を出発し、研修会場となる大阪府立海洋センターに10時30分に到着しました。初日はあいにくの雨模様となってしまったため、海洋実習を行うことができなかったのは残念でしたが、体育館での集団行動研修やレクリエーションでクラスの絆を作っていきました。生徒たちは指示をよく聞き、てきぱきと動くことに努めていました。2日目の4月22日（金）は、前日の雨が嘘のように朝から晴れ渡りました。前日断念した海洋実習も行うことができ、カッターボートに乗りました。

カッターボートは、約20人前後の乗組員が2人一組でオールを用いて漕ぎます。1艘のボートに約10本のオールが設置されているのですが、最初はタイミングが合わず、スピードを出すことができませんでした。しかし、慣れてくるに従ってタイミングが合い、漕ぐコツがつかめてきたようで、実習の最後のほうでは結構スピードを出して進めることができるようになりました。力を合わせて一つのことに協力して取り組むという体験ができたことで、絆も強まり、有意義な実習となりました。

13時30分ごろ研修会場を出発し、14時40分ごろ長居に到着しました。この宿泊研修でうれしかったことがあります。それは往復のバスの中のことです。生徒たちには事前に「マスクを着用の上、会話は厳禁」と伝えていました。事前に指導はしてあったものの、「バスの中でも指導が必要だろうな」と心配をしていたのですが、全くの杞憂に終わりました。バス乗車時に「ルールは覚えていますね」と確認したのみで、到着するまでほとんど無言。マナーを守る姿勢がしっかり続けられていました。

今後の行事予定

この文章を書いている時点ではまだ実施されていませんが、7月11日（月）～7月12日（火）に中学2年生が大阪南港のコスモスクエアにある「ホテルフクラシア大阪ベイ」にて勉強合宿を行う予定です。

この合宿の目的は2つあります。講義と自習の組み合わせなのですが、講義よりも自習の時間を多く取っています。講義を受ける中で自ら課題を見つけ出し、その課題に取り組むことが出来るようにすることが1つ目の目的です。受け身ではなく能動的に取り組む練習を積むことで、積極的に進路を獲得していく力を養います。

2つ目の目的はホテルでのマナーを学習することです。ロビーや廊下、レストランでの振る舞い。オートロックへの対応。カードキーの使い方。ユニットバスの使い方。その他、全ての体験が学びとなります。この体験は修学旅行に繋がっていくため是非とも実施したい行事です。

携帯電話預かりBOX

今年度から、携帯電話の取り扱いについても変更しています。昨年度までは、授業中や休み時間に必要なく勝手に携帯電話を使用していた場合、厳しく注意していました。しかし残念ながら、どれだけ注意をしても使用してしまう生徒がいました。そこで今年度より専用の預かりBOXを用意し、朝のSHR時に全員から預かり、終礼時に返却するという方法を採用しました。必要のない使用を控え、勉学に集中する環境を作ることで、落ち着いた学校生活を送り、真に豊かな人間となっていくことを願っています。

在校生の活躍

輝く人 リポート vol.58

医療機関・各自治体・教育機関等、様々な機関で必要なネットワークを構築!!

2010年卒業生

餅井（もちい） 貴雄（たかお） さん

ネットワークの最前線でお仕事をされている餅井さん。
現在のお仕事に繋がるきっかけや将来の夢についてお聞きしました。

（写真撮影時のみ、マスクを外しています）

餅井 貴雄 さん　経歴

2010 年度卒業生

2011 年 3 月　大阪学芸高等学校　卒業
2015 年 3 月　大阪工業大学工学部電子情報通信工学科　卒業
2017 年 3 月　大阪工業大学大学院工学研究科電気電子工学専攻　卒業
2017 年 4 月　ソフトバンク株式会社　入社
2019 年 1 月　アライドテレシス株式会社　入社

▶ 現在なさっている仕事について教えてください

通信ネットワークのシステムエンジニアとして働いています。ネットワークというと、高校生のみなさんは、スマートフォンやタブレットなどでインターネットや SNS を閲覧する時に利用することが多いと思います。しかし、インターネットを閲覧するネットワーク以外にも、組織内部システムでしか利用できない閉じたネットワークもたくさん存在します。例えば、病院の医療システムを利用するネットワーク、自治体の行政業務を行うネットワーク、教育機関の研究開発や教職員が利用するネットワーク、企業の社内システムを利用するネットワークなど、さまざまなネットワークがあります。

勤務しているアライドテレシス（株）はネットワーク機器製造業から始まり、現在では医療機関・自治体・教育機関に多くのネットワークソリューションの提供を行っています。

システムエンジニアの業務を大きく２つに分けて説明します。一つ目は「要件定義・設計」です。お客様それぞれの業種や環境によりネットワークに要求される内容が異なるため、要望をヒアリングし、要件に沿ったネットワークの提案を行います。どのような機能を使用するのか、またどのような技術で実現できるのかを検討し、ネットワークを設計していきます。お客様に寄り添って考え「次もお願いしたい」と思っていただけるような関係作りが大事です。二つ目は「試験・導入」です。お客様環境へ実際にネットワークの導入を行います。導入前に社内で機器の設定を行い、問題なく稼働するか試験を実施し確認します。新規ネットワークを導入する場合もありますが、既存ネットワークを更新する場合は、その間ネットワークが停止し業務ができなくなります。特に医療機関・自治体・教育機関は、私たち利用者へ大きな影響が出ますので、お客様と密にコミュニケーションをとり、慎重にネットワークの切り替え作業を実施する必要があります。導入に関わる人や物、スケジュールなど全体的なマネジメントも重要な仕事です。

ネットワークは繋がっていて当たり前の時代ですが、通信品質が改善されたり、新しい機能が追加されたりすることで、お客様の「満足しています」というお言葉を受けると、時間をかけてネットワークを構築した甲斐があります。現在は大阪を拠点に、京都、兵庫、和歌山、奈良、滋賀と関西全域の対応を行っています。出張したときに、それぞれのご当地グルメを食べ歩くのも楽しみの一つです。

▶ どのような高校生活を送っていましたか

入学当初は何か目標を持って入学した訳ではありませんでした。学業は可もなく不可もなくとりわけ目立った成績ではなかったのですが、世界史と数学だけはなぜかトップを走っていました。部活動には参加していませんでしたが、趣味のサイクリングに一生懸命励んでいました。同じ趣味の友達とサイクリングを計画して、和歌山や京都を観光したり、淡路島を一周したりしました。サイクリングを通じて、計画・実行・振り返りを自然と行っていたように思います。

２年生の頃、兄の影響を受けて、将来は電気通信関係のエンジニアとして働きたいと思い、大阪工業大学を目指しました。しかし、受験に必要な数学の授業が、在籍していた進学コースにはなく、高いハードルだと思ったことがあります。当時数学を担当していた先生が数学ⅡB、ⅢC を個人的に授業してくださり、２年生の春から３年生の夏にかけて約半年間、平日・休日問わず協力してくださったことで無事合格することができました。大学に入学してから理系科目の勉強についていくのは大変でしたが、高校生時代に培った、目標に向かって諦めずに努力する精神で乗り越えられたと思います。

数学の授業をしていただいた先生はもちろんのこと、担任の先生には、文系から理系へ進学するという事例の少ない中でも、私の意志を尊重し、最大限のご支援をしてくださり大変感謝しています。学業と自分の活動を両立できる大阪学芸高校で学校生活を送ることができ、よかったと思います。

▶ 現在の仕事を目指したきっかけは何ですか

高校生のころに携帯電話を持つようになり、ネットワークがあることで世界中と繋がることができて、さまざまな情報を取得できることに非常に大きな関心を持ちました。大学に進学して、電気通信を専門に勉強していく中で、通信インフラが人々に与える影響の非常に大きいことを実感し、通信インフラを支えるような仕事がしたいと思いました。通信インフラは、水道・ガス・電気などと同様に、現代社会において、生活になくてはならない社会基盤となっています。医療機関・自治体・教育機関は国民が生活する上で重要な機関であり、アライドテレシス（株）はそれらの機関に強みのある会社です。そのような機関のシステムを繋げるネットワークに携わり、目の前のお客様の課題を解決することで、より身近に幸福を実感しています。

▶ 現在の仕事に関わるために努力したこと・苦労したことは何ですか

現在進行形で勉強をし続けていることです。IT業界は今勉強した内容が数年後にはまったく違う技術に変わってしまうこともあるくらい変化の早い業界です。大学時代に基礎的な部分は十分に勉強をしましたが、入社後も常に新しい技術を勉強し続けています。ITシステムはこれからもどんどん変化していきます。最新の技術動向に注意を払い、常に勉強し続けていく必要があります。

▶ 現在の仕事に関わるために必要な知識・技能・資格は何ですか

システムエンジニアという仕事に、必要な資格はありません。誰でも未経験から始められます。IT系国家資格を取得していることで知識の証明になりますので、未経験より優位になります。しかし、知識だけでは現場対応はできません。技術的な知識や技能に加えてお客様や社内の仲間とのコミュニケーション、人や物、スケジュールなどのマネジメントも大切です。それらの総合的な能力が必要になる仕事です。

▶ 現在の仕事がご自分の人生に与えた意味は何でしょうか

改めて、社会は人と人との繋がりで成り立っているのだと感じました。どちらかというと、技術的な勉強は個人で行うことが多く、また趣味のサイクリングも一人でできます。しかし、仕事を進めていくには、お客様や関連システムの業者様、社内の関連部署など多くの人と連携する必要があります。

技術者として、技能を向上するだけではなく、人間性も磨いていく必要があるのだと現在の仕事を通じて感じました。

▶ 将来の目標・夢を教えてください

将来も通信インフラに携わりたいと思っています。情報伝達に関しては、大昔は火を起こして狼煙をあげたり、江戸時代は飛脚といった職業が行ったりしていました。伝達する媒体は時代を追うに従って変化し続けています。これから先、主要となる伝達方法が電気通信から変革される時がくるかもしれません。

現状に満足してしまうことなく、常に新たな気持ちで学び続けていくことが目の前の目標になります。

▶ 在校生へのメッセージをお願いいたします

IT業界と同じように、社会情勢はどんどん変化しています。数年前スマートフォンが誕生した時、今のように普及していることを多くの人が想像できませんでした。コロナ禍前後のたった数年で働き方も大きく変化しています。これから先 10 年後に社会がどうなっているかは、誰にもわかりません。また未来のあなたを予想することもできません。しかし、明日のあなたを造るのも、10 年後のあなたを造るのも今のあなたです。将来の目標や夢を持って、それに向かって一つ一つ行動していく。言葉にすると簡単ですが、実行するのはなかなか難しいかもしれません。しかし、人生、小さいものから大きいものまで選択の日々です。「どうするのか？」「どうしたいのか？」と、自分に問いかけて今を選択し行動してみてください。自分以外のものに期待し過ぎていると、思うようにいかなかった時、大きな後悔が生まれます。自分が選んだ選択を最善にする努力をして、間違っていたと感じたなら軌道修正してまた進めばよい、くらいの気構えが必要です。頑張ることができない時もありますが、そのような時は立ち止まってもよいと思います。歩き出す力が充電されたら心機一転、精一杯頑張ってください。

空手道部

頑張ってます 体育部

空手道部・形競技
高校女子・中学校男子 目標達成!!

高校

普段の練習内容について

普段は、主に基本に重点をおいて、練習を行っています。また、ひとつの形を 2～3 分割した部分練習も行い、回数がこなせるようにしています。形は、バランスや安定が必要な競技でもあるので、週に 2 回、トレーニングも取り入れています。

試合前になると、「これだけの回数をこなした」という自信をつけるためにも、形の通しを何度も行い、調整をします。

練習は厳しく、辛いこともありますが、コーチが組んでくださるメニューには勝つために必要なことばかりで、ひとつひとつの練習を大切にし、毎日全力で取り組んでいます。

雰囲気について

明るい性格の部員が集まっており、元気があり、良い雰囲気で練習をしています。

ひとりひとりが明確な目標を持ち、先輩・後輩関係なく互いにアドバイスをしたり、励まし合ったりと、切磋琢磨しています。部員全員が良いライバルであり、本気でぶつかり合うことができ、また高い意識のもと、チーム全体のレベルアップができる最高の仲間たちがそろっています。

第 41 回近畿高等学校空手道大会（2022 年 1 月 8 日～ 10 日）団体形 優勝の結果について

近畿大会の決勝では、形だけでなく攻撃や受身などを取り入れた「分解」の演武があり、準決勝までとは違う緊張感がありました。審判や観客の方々に迫力を伝えるために、攻撃を受けた後の倒れ方や投げ方、回転蹴りの見せ方を工夫し、ダイナミックな演武になるよう心掛けました。技を決めるごとに拍手が起き、その場の雰囲気を楽しむこともできました。

優勝できたことへの嬉しさはありましたが、同時に多くの課題が見えた場でもありました。

第 41 回全国高等学校空手道選抜大会（2022 年 4 月 21 日～ 24 日）団体形 優勝の結果について

３月に宮城県で開催予定だった選抜大会は、地震の影響で中止となりました。今まで、この大会のために練習を重ねてきたこともあり、気持ちの整理をつけるのに時間がかかりました。しかし、さまざまな人達が協力し、代替試合というチャンスを与えてくださり、私たちは優勝をつかみ取ることができました。改めて、試合ができるということは当たり前のことではない、と感じさせられ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

また、先に行われた個人戦で古河選手が優勝し、団体メンバーの士気もより一層高まりました。さらに、決勝に至るまでに、予選ラウンドで自分たちが予想していたよりも高い点数が出たことで、良い流れをつかむことができました。私たちの最大の武器は､同一性･一致性です。練習の成果を発揮して動作やタイミングを乱すことなく演武することができ、優勝することができました。監督・コーチ、支えてきてくれた皆さんへの恩返しができたのではないかと考えています。多くの人への感謝を忘れず、今後もより上を目指して頑張ることを決意しています。

中学校

普段の練習内容について

基本練習が大切であることはもちろんですが、団体形の試合前は通し練習を主に行い、撮影した動画でチェックをし、研究を重ねています。3 人の形がそろっていなかった場合は、上手くいくまで何度も繰り返し練習をします。そして、試合後はあえて基本練習を徹底し、自身の形を見直す期間を作っています。

雰囲気について

練習は高校生と同じ場所で行っており、先輩方から良い刺激をもらっています。中学生のチームは仲が良く、互いに意見を言い合いながら技術を磨いています。しかし、高校生と比べるとオンとオフの切り替えが上手くできていないこともあります。集中して意識を高め合えるように、普段から心掛けています。

第 29 回全国中学生空手道選手権大会（2021 年 8 月 20 日～ 22 日）団体形 準優勝の結果について

あと一歩というところで負けてしまった悔しさが残る一方、中学 2 年生で全国の舞台に立てたことは、緊張もありましたがとても良い経験となりました。しかし、この大会で優勝したチームにはまとまりがあり、気持ちの面でも大きな差を感じました。今までコーチや先輩方に頼りきりだったことを反省し、自分たちで考えて行動することの大切さに気づきました。

第 30 回近畿中学校空手道選手権大会（2021 年 12 月 19 日）団体形 優勝の結果について

当日は個人戦に出場したということもあり、団体形の練習をする時間があまり確保できませんでした。しかし、全国中学生空手道大会で悔しい思いをした分、反省点を改善し、日頃の練習から優勝する覚悟を持って取り組んでいたので、本番ではその成果を発揮することができたと思います。普段の練習がこれほどまでに試合に影響したことに驚き、またその重要性に気づかされました。

3 人とも笑顔で本番を迎え、余裕があったようにも感じています。

※集合写真・演武写真については、撮影時のみマスクを外しています。

入賞者コメント（個人形）

第41回全国高等学校空手道選抜大会

高校 2 年　古河　蒼波（ふるかわ　あおば） 優勝

近畿大会の個人戦では、第 1R で 1 位通過ができたものの、第 2・第 3R では 2 位通過、最終結果は第 3 位となりました。この結果から全国選抜大会への出場権は得られたものの、自身の技術の未熟な部分に悔しさが残りました。この大会で見えた課題に取り組んで修正し、「次こそは優勝をする！」と決意し、日々の練習にもより一層力を入れました。

全国選抜大会では、近畿大会での悔しさを胸に、自分らしさを大切にして状況を楽しみ、攻めの演武ができるように意識しました。コーチから教わった「形には物語がある」という言葉通り、私なりの物語を表現し、審判を惹きつける演武ができたと思っています。結果としては、監督やコーチ、仲間や家族の支えのもと、優勝を勝ち取ることができました。良い環境の中で練習ができることに感謝し、今後も引き続き自身を磨けるようにしていこうと思います。

第41回近畿高等学校空手道大会

高校 2 年　山本　真由（やまもと　まゆ） 優勝

たとえ失敗をしたとしても、その後の切り替えが早くできるように、日頃の練習時から意識をしていました。そして試合の当日は、繰り返し練習をしてきたことが 100%の力で出せるように、また落ち着いた状態で形がうてるように心掛けました。結果、決勝戦においては自分の得意な箇所を最大限にアピールすることができ、練習よりも良い形をうつことができ、優勝につなげることができました。

技術面を磨くだけでなく、精神面における鍛錬も必要だと改めて感じさせられました。今後も、心身ともに鍛えて技術向上を目指します。

JOCジュニアオリンピックカップ 未来くん杯 第16回全国中学生空手道選抜大会

中学 3 年　奥村　宗司（おくむら　そうし） 優勝

大会に向けて練習する際は、部内のライバルや高校の先輩方、OB・OG の方々の良い部分を吸収し、修得できるように研究と工夫を重ねました。また、いただいたアドバイスにも素直に耳を傾け、すぐに実践するように心掛けました。優勝できたことは大変嬉しく思いますが、多くの方々の協力があったからこそ得られた結果であり、自分一人だけで成し遂げたものではないと改めて感じました。

中学 3 年　田井　滉泰（たい　こうだい） 第 3 位

日頃の練習では、多くの努力をしてきましたが、あと一歩のところで決勝に残れず、3 位という結果に悔しい思いをしました。今年度の夏に行われる全国中学生空手道大会では、ライバルを倒し、優勝を勝ち取りたいと思います。

中学3年　麦谷　亮英（むぎたに　りょうえい） 第 7 位

練習でできていたことが本番で発揮できずに、7 位という結果に終わってしまい、悔しさでいっぱいです。次に出場する大会に向けて、もっと貪欲になって練習に取り組み、後悔することのないようにしたいと思います。

学芸ニュース

OGCIS 入学式・オリエンテーション

ダブル・ディプロマコース

OGCIS のバッジ。中央はブリティッシュコロンビア州旗。

４月５日（火）、フェニーチェ堺にて、OGCIS（Osaka Gakugei Canadian International School）の第４回入学式が挙行されました。ハーフヤード学校長による歓迎の挨拶の後、OGCIS のピンバッジが授与されました。生徒たちは、OGCIS の生徒であることを誇りに、３年間を過ごします。入学式に先立って４月１日、２日に行われたオリエンテーションでは、早速２期生、３期生の先輩たちと交流を行う中で、学校生活に関するアドバイスを受けたり、緊張をほぐすゲームに一緒に参加したりしました。先輩たちがお互いに英語でコミュニケーションを取っている姿に驚かされながらも、新しい生活への期待に胸を躍らせている様子でした。

グローバルコース

今年度より新設！

グローバルコースの魅力をインタビュー!!

国際科に今年度より新設されたグローバルコース。その担当のルイス・ウィリアムズ先生に１年Ｂ組の鈴木春志（すずき　かずゆき）さんと１年Ｃ組の篠原千尋（しのはら　ちひろ）さんがインタビューしました。

鈴木：What are the attractions of the Global course?
ウィリアムズ先生：The Global course has many attractions. As well as learning English from native teachers, students can learn a second language such as Spanish, Korean, or Chinese in their second year. Students can choose to study abroad too. The merit of the Global course is the flexibility of the short-term study programmes. Compared to other courses, students have more choice in when (Jan/July/Aug 2023) and where (England, Australia, New Zealand, etc.) they can go.

鈴木：What do you think is good about Japan?
ウィリアムズ先生：Japan has many good points! The top 3 things I like about Japan are manners, nature, and festivals. First, Japanese people are excellent at being polite. I respect おもてなし and 場の空気 culture. Second, unlike the UK, Japan has beautiful mountains, beaches, and weather. Third, Japanese festivals are enjoyable. There are many festivals that are unique to Japan and happen all year round.

篠原：Why did you decide to teach in Japan?
ウィリアムズ先生：For many reasons! I decided to teach English because I enjoy working with young people and I am good at English. I decided to work in Japan because my older brother recommended Japan to me. Also, because I was born in Japan, I wanted to return to Japan. Lastly, I love karaoke, Japanese food, and public baths.

篠　原：What is traditional UK culture?
ウィリアムズ先生：UK culture is diverse. The UK is famous for musical artists like The Beatles, Adele, and Ed Sheeran. The UK has a rich history too! There are churches instead of temples or shrines and British castles look very different. Like Japan, each area has different customs and even accents. A London accent and Scottish accent are very different! If you like soccer, you will love Britain’s favourite sport...football! It is always on TV. There is a lot of theatre and performance in the UK; have you heard of William Shakespeare? British food uses a lot of potatoes and pastry (and yes, it’s tasty)! Everyone drinks tea or coffee at breaktime.

篠原：Please tell me how to enjoy studying.
ウィリアムズ先生：Studying might already sound boring, so try to enjoy learning! I have three pieces of advice. First, try learning with a friend, teacher, or your family. Learning together makes studying easier. Second, teach others. You can remember more easily and learn more thoroughly if you can teach others how to do something. Third, create a study quiz. If you and your friends all make questions about a different subject, you can enjoy quizzing each other. Good luck studying!

篠　原：Thank you! We continue to study hard.

以下は日本語による要約です。

鈴木「グローバルコースの魅力は何ですか。」
ウィリアムズ先生「グローバルコースには多くの魅力があります。ネイティブの教師から英語を学ぶだけでなく、２年次にスペイン語、韓国語、中国語などの第二言語を学ぶことができます。グローバルコースのもう一つの魅力は、短期留学ができるということです。留学時期、留学国を自分で選択することができます。」

鈴木「日本の良さは何だと思いますか。」
ウィリアムズ先生「日本には良い点がたくさんあります！まず、日本人はとても礼儀正しいと思います。おもてなしにはいつも魅力を感じます。次に自然豊かなところが好きです。英国とは異なり、日本には美しい海、山がたくさんあります。最後に、日本ならではのお祭りがたくさんあり、参加するのが好きです。」

篠原「なぜ日本で教えようと思ったのですか。」
ウィリアムズ先生「これもたくさんの理由があります！私の兄が日本に住んでおり、日本を勧めてくれたので、ここで働くことにしました。また、私は日本で生まれたので、故郷に帰りたいと思ったからです。」

篠原「英国の伝統文化は何ですか。」
ウィリアムズ先生「英国の文化は多様です。英国は、ビートルズ、アデル、エドシーランなどのミュージシャンが有名です。日本では寺や神社がありますが、英国には教会があります。日本のお城とは異なる外見のお城もあります。日本と似ているところは、地域ごとに習慣や発音が異なっていることです。ロンドンの発音とスコットランドの発音は全然違います。」

篠原「勉強を楽しむ方法を教えてください。」
ウィリアムズ先生「勉強を楽しくする方法として３つアドバイスがあります。まず、友達や先生、または家族と協力して勉強してみましょう。そうすることで勉強が苦ではなくなります。次に、他の人に教えてみてください。友達に勉強を教えることができれば、その単元の定着を図ることができます。最後に、小テストを作成してみてください。自分と友達がそれぞれ異なる教科の問題を出し合えば、楽しく学べます。これからも頑張って勉強してくださいね！」

篠原「ありがとうございます！これからも一生懸命、勉強を続けます。」

※写真撮影の際以外はマスクを着用してインタビューしました。

カナダからの留学生紹介

クラスメイトとして仲間入り!!

僕は２年Ａ組の留学生、細川暖（ほそかわ　だん）です。カナダの東側にあるサックビルという町から来ました。サックビルは、人口４千人程の小さな町です。

日本に留学した理由は、日本語を勉強したいことと、日本の文化を学びたいことと、日本食を沢山食べたいことです。

日本の学校とカナダの学校は随分違います。例えば日本の学校は授業数が多くて、宿題も沢山あります。クラブはバレー部に入りほぼ毎日練習がありますが、とても楽しい日々です。

日本でやりたいことは、友達を沢山作ることと、山登りをすることです。

僕はまだまだ日本語を上手に話せませんが、この１年間どうかよろしくお願いします。

高等学校

祝 国際科1期生卒業

今年3月、国際科1期生が卒業しました。

ダブルディプロマコースでは大阪学芸高校卒業式とは別にカナダの卒業式が行われました。生徒たちはブリティッシュコロンビア州から取り寄せたガウンと帽子を身に着け、カナダ式の卒業式の後、伝統の「Throwing Hat」をグラウンドにて行い、OGCISを巣立っていきました。

1年留学コースは、想定外のコロナ禍の中、カナダまたはニュージーランドで1年間過ごしましたが、どの生徒も英語力を大きく伸ばし、困難に負けずに進む人間力を育んで卒業しました。

両コースとも、培った英語力とグローバル・マインドを活かし、多くの生徒が海外大学や国内の難関大学に合格しました。今後はそれぞれの環境の中で、国際人として大きく羽ばたくことを期待しています。

進路実績　国際科1期生（卒業生37名）合格大学（数字は合格実人数）

【大阪大学】1
【中央大学】3
【同志社大学】2
【立命館大学】3
【立命館アジア太平洋大学】1
【京都外国語大学】3
【慶応大学】1
【立教大学】2
【関西学院大学】6
【近畿大学】9
【上智大学】1
【専修大学】1
【関西大学】3
【京都産業大学】2
【関西外国語大学】7
【同志社女子大学】2
【The University of British Columbia（カナダ）】1
【Vancouver Island University（カナダ）】1
【University of Calgary（カナダ）】1
【Blue Mountains International Hotel Management School（オーストラリア）】1
【Les Roches Global Hospitality Education（スペイン）】1

サイエンスラボ News Vol.1（生物編）

学芸新聞第18号（2021年11月22日発行）で完成披露記事が掲載されたサイエンスラボ。今号では授業風景をご紹介します。

新設されたサイエンスラボは、1階が視聴覚室、2階が生物実験室、3階が化学実験室です。本館にあったこれまでの実験室よりも広く、2階と3階に分かれて同時に実験が可能なので、授業の重なりをほとんど気にすることなく利用することもできます。

また、オートクレーブやクリーンベンチ、遠心分離機、恒温培養機なども新たに設置されています。これまで出来なかった実験などにもいろいろ挑戦できると期待され、生徒たちも非常に楽しみにしています。

さて、新学期が始まり、新しい実験室で何回か実験を行いました。今回は生物分野から2つ紹介いたします。

1つ目は「酵母菌のアルコール発酵」の実験です。酵母菌はグルコース（ブドウ糖）をエサに発酵を行います。その結果、エタノールと二酸化炭素が生成します。（エタノールは手指消毒薬としてよく知られるようになりましたね。）それらが生成する様子を、キューネ発酵管を用いて観察しました。

まず、生徒たちは、グルコース溶液と酵母液を混ぜ合わせるところからスタートしました。それをキューネ発酵管に入れていくのですが、こぼさずに入れていくことがなかなか難しいのです。しかし、生徒たちはほとんどこぼすことなく、器用に入れていました。そして、発生する二酸化炭素（気体）の量

を1分ごとに測定し、記録していきます。しだいに増えていく気体の様子を見て、最初こそ「増えてきた！」と喜んでいましたが、ふと「気体がこのまま増え続けたら…」と心配になった様子。あふれそうになる一歩手前で観察を終え、発生した気体が本当に二酸化炭素なのかを調べるため、水酸化カリウム溶液を加えて親指で発酵管の口をふさぎ、静かに混ぜました。すると、中の気体が反応してどんどん無くなっていきます。それと同時に、中が急激に減圧され、親指がびっちりと吸い込まれていきます。耐えられず生徒が親指を離した瞬間「スポンッ」といい音がしていました。この結果から、発生した気体は二酸化炭素であると確認できました。また酵母液と発酵液のにおいもそれぞれ嗅いでみました。はっきりとはしないながらも、「発酵液のほうはなんとなく甘いお酒のようなにおいがする…」と述べ合っていました。

2つ目は「顕微鏡の使い方とミクロメーターの使用法」についての学びです。1人1人が自分で操作して顕微鏡の扱い方を学ぶと同時に、ミクロメーターで細胞の大きさを測定できるようになることを目的に作業を行いました。まず、顕微鏡の各部分の名前の確認をしてから、接眼ミクロメーターと対物ミクロメーターの準備をしました。最初は低倍率から見るのですが、すぐにピントが合わせられる人もいれば、なかなか合わせられない人もいます。全員がピントを合わせられたところで、さらに高倍率にして拡大して見てみます。問題集などでよく見ていた図と同じものが見え、より一層理解を深めていました。ミクロメーターのしくみを理解した後は、ヒトの血球のプレパラート（市販品）を見ました。ここまでくると、ほとんどの生徒がすぐにピントを合わせることができ、たくさんの小さな赤血球が見えたことに「おぉっ」という声が聞こえてきました。（どうやら気持ち悪かったようです。）よく見てみると赤血球の他に少し大きめの細胞も見えていました。この時間はここまでで終わりになってしまったので、次回は血球の大きさを測り、さらに植物細胞などを観察する予定です。

学芸スポーツ

GAKUGEI SPORTS　2022/ 7月20日

第20号

■発行元　大阪学芸高等学校・大阪学芸高等学校附属中学校
〒558-0003 大阪市住吉区長居1丁目4番15号
TEL.06-6693-6301　FAX.06-6693-5173

「自主性を重んじる」をモットーに

楽しく全員野球

大阪学芸高校硬式野球部は「伸び伸びと効率よく、自主性を重んじる野球」をモットーに日々活動しています。

我々の練習はひと味違います。アップが終わると、部員たちは定位置に散らばっていきます。ただし、いわゆるチーム全体で行うシートノックはしません。それぞれがゴロをさばいたり、フライを捕ったり。部員が各自で課題を見つけて予定を立て、実践していきます。まるで、自主練習を見ているかのようです。大リーグの選手が見せるようなグラブトスや素手でさばく「ベアハンド」の練習をする内野手もいます。

打撃練習でも、使うバットは特徴的です。米国製の低反発の金属製バットや「コンポジット（複合）バット」を握る選手が多く見うけられます。コンポジットバットとは、打つ部分はメープル材で、グリップエンドまではカーボンの芯が入ったウレタン製。いずれも打球が飛びにくいとされるバットです。強く振って芯に当てなければ、長打は出ません。体格を問わず、全員が強振を繰り返す練習をしています。

練習メニューを作成するときは、部員が効率よく成長するためにはどうしたらよいかということを常に心がけ、チャレンジングな姿勢を積極的に出すことのできる環境を準備しています。この考え方は、顧問の小笹先生がドミニカ共和国で大リーグのアカデミーを見学した際に、選手に理論を押しつけない指導を目の当たりにして、改めて編み出したものです。育成方針も、「甲子園だけがすべてではない。25、26歳で活躍できる土台を作ろうとしている」という独特のものです。

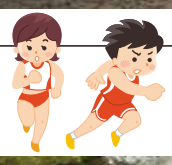
「チームの課題は何なのか」「どういうプレーができるようになりたいのか」の問いかけを選手と共有しながら、練習内容を決めています。練習試合も「この部分は頑張らないといけないよね」など、部員たちの反応や反省を踏まえて組むようにしています。

見ていてわくわくするようなチームを作りたい。

そして、楽しんで野球をしているけれども、力もあるよね、試合をしたら強いよね、というようなチームを作るのが理想です。

この理想に向けて日々、楽しく、なおかつ勝利を目指しながら頑張っています。

※硬式野球部・陸上競技部とも、撮影時のみマスクを外しています。



陸上競技部　女子800m 近畿インターハイ出場!

3年生の清水つばさ選手が女子800mで大阪インターハイ5位に入賞し、近畿インターハイに出場しました。

昨年度、女子陸上競技部は創部初の近畿高校駅伝出場を果たしました。トラックでも結果を残すために、今年度は近畿・全国インターハイを目標に、冬季期間から春先にかけて懸命にトレーニングを積んできました。

冬季期間は怪我人も複数出てしまい、苦しい中での練習でした。しかし、清水選手が主将として部全体をまとめながら、個人の目標でもあった近畿インターハイへ向けて、精力的に練習を積み重ねてきました。

清水選手は、4月のシーズンイン当初から、800mおよび1500mにおいて相次いで自己ベスト記録を更新し、勢いに乗る中で、5月29日の大阪インターハイ決勝に臨みました。決勝ではラスト200mからの猛烈なスパートで先行選手を追い上げ、入賞を果たしました。普段からの練習で培ってきた力が自信となって、ラストスパートに現れていました。高校入学からの2年間、伸び悩み、苦しんでいた期間もありましたが、そこで挫折することなくひたむきに努力を続け、道を切り拓いていく姿勢の大切さを改めて実感しました。

1年生では、上田悠輔選手が男子800mで7位入賞を果たしました。近畿インターハイ出場まではあとわずか及ばなかったものの、1年生ながら1分55秒の好タイムで走り、今後に繋がる走りができました。

来年度はさらに多くの種目で近畿インターハイに進み、さらには全国インターハへの出場を果たすべく、これからも練習に精進していく所存です。

応援のほど、どうか宜しくお願いいたします。